近江商人の知恵と理念を現代に生かす情報紙

AKINDO委員会

三方よし

売り手によし　買い手によし　世間によし

創刊号

1995／8

あいさつ

AKINDO会議委員長　出家鋪　美嗣

「近江商人」をキーワードとして「人材育成」「交流ネットワーク」「近江商人の顕彰」などの事業を展開しようと平成四年に県や経済団体などで構成するAKINDO委員会が設立。セミナーの開催、交流事業などを実施してきました。

AKINDO会議は滋賀県内の若手経営者などで構成する推進組織として、AKINDOの事業を通じて本県の活性化、イメージアップに向けた取り組みを県民運動として展開しています。この度、近江商人の卓越した商業理念へのご理解を深めていただき、現代生活の中で、近江商人の知恵と理念を生かそうと情報紙「三方よし」を発行することとなりました。

ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

近江商人の金言名句

三方（さんぽう）よし

五個荘の中村治兵衛家の家訓に「他国へ行商するも総て我事のみと思はず、其の国一切の人を大切にして、私利を貪ること勿れ……」とある。出先の国々でその国一切の人を大切にしようというのである。かつて日本の企業が海外へ進出して、生活習慣や文化の違いによって、進出した国々とさまざまな摩擦を起こしていたことが、思わず思い出される。幕藩体制の中で、近江より遠くへ出掛けて商売を展開した近江商人は、自給自足の経済体制を乱す泥棒と思われたのかも知れないが、各藩の特産品の振興に大きく貢献した彼らは、出先で締め出されたと言うのをきいたことがない。「売手よし、買い手よし、そして世間よし」の三方よしの近江商人理念が出先での地域の社会貢献に大きく寄与していたからである。

CONTENT

■シリーズ第一回　現代に生きる近江商人の知恵……2～3頁
■ふるさと探訪ウォーク「近江商人の妻に学ぶ」／西川甚五郎本店の歴史……4～5頁
■特集「めざせ現代の近江商人」／新近江商人塾の開催ご案内……6～7頁
■好評近江商人家訓と商法カレンダー本年も制作／中学生用ビデオ完成／パネル展各地で開催／てんびん棒……8頁

現代に生きる近江商人の知恵

岡崎女子短期大学講師　井口　貢

第1回

平成三年のAKINDOフォーラムが開催されて以来、「三方よし」は一躍全国に商人の精神的理念の根本であると評された。低成長、不況といわれる現在に、地域への貢献を意識していた近江商人の共通の理念が脚光をあびている。このシリーズでは、現代の企業経営に、商売に、今生きている彼らの思想を探ってみることとする。

日本資本主義の原郷

原郷という言葉がある。原風景といってもよい。人が挫折という暗礁に乗り上げたとき、しばしば想起する心の拠り所でもある。人に限らずシステムとしての社会においてもいえるのではないだろうか。わが国の戦後経済を側面からみたとき、左翼運動の蹉跌（さてつ）の末には必ずといっていいほど「柳田国男ブーム」が起きているという事実は、その恰好の傍証（ぼうしょう）であろう。一方、戦後の日本経済の足跡を考えたとき、〝経済大国ニッポン〟への道程で経験した〝高度経済成長の終焉〟という挫折。今一つは、昭和の晩年に端を発する金融景気、バブル経済を経た宴のあとの黄昏という挫折。長く深い平成不況のなかで、バブル崩壊の残滓（ざんし）はくすぶり、日本経済はいまだにあてどなく彷徨しているような感がある。

戦後の大きな二つの〝経済の季節〟の変わりめに訪れたそれぞれの挫折の迫間やその後では、しばしば、物の豊かさではなく、心の豊かさと真の豊かさの所在が問われてきた。

今の日本経済に回帰すべき原郷とは何であろうか。それは、資本主義が本格的に開始された明治期の精神でもなく、復興に一丸となった昭和・戦後の意志でもなく、近江商人の活動と精神、そして、それらを生み出した江戸の知慮を想起してみたい。

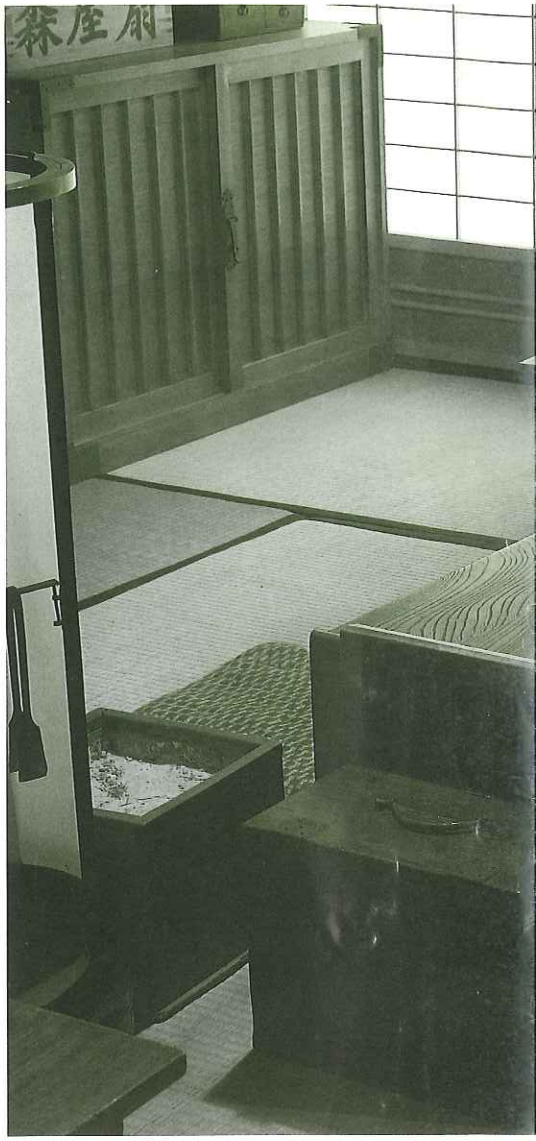
江戸町人思想の体現者

江戸の思想は多様で豊饒だが、その中でもとりわけ私は近世町人思想に大きな魅力と意義深さを感じる。鈴木正三[注①]、石田梅岩[注②]らによって提出された生活倫理の思想を自らの商行為のなかで実践、体現したのが近江商人と呼ばれる人たちではなかっただろうか。

近江商人の発祥やその起源については、故小倉榮一郎氏の諸著作に詳しく記されているので、それらを参照されたい。ただ確認しておかなければならないことは、「近江商人といわれるのは、近江からでて他国で商売した商人を、他国の人が呼んだ名である」という、基本的でそしてかつ近江商人の本質に関わる指摘である。また、誤った言葉として、そしてしばしば流布してきたものに、「近江泥棒、伊

注①：鈴木正三／1579～1655・三河出身の禅僧で、職業とその倫理を仏教の立場から考察した。彼の高弟の三栄が、晩年近江の蒲生郡内に教線を伸ばし、正三の思想の後継者として民衆教化を行い、現在の八日市市や蒲生町に寺院を開山したとされているのは興味深い。八日市や、日野の商人たちの仏教信仰に何らかの影響を与えた可能性は高い。

注②：石田梅岩／1685～1744・自らも商人としての日常を送るなかで、町人のための生活思想を構想した。



勢乞食」とか「近江商人の歩いた後は、ペンペン草も生えない」さらには、「近江商人が売った蚊帳には天井がなかった」というものまである。まるでこれなら悪徳商人そのものバブル商人の元祖であり、企業家精神とは程遠い。

確かに群生した近江商人のなかには、このような輩もいただろう。しかし、名を成した近江商人たちや、子々孫々までその事業を永続展開した人たちは、悪徳商法で得た一時の財では真の富たり得ず、一代限りの快楽は保証されても、後世にまで家名を残すことはできないということを、生活実践のなかで学び取っていた。そのことは、残された家訓、家憲からも窺い知ることができる。例えば、元禄バブルの時代に生きた紀伊国屋文左衛門や奈良屋茂左衛門は、歴史に大きく名を残したが、家名を後世にまで残すことはできなかった。一方、日本を代表する総合商社の丸紅、伊藤忠の名や、高島屋百貨店、大丸百貨店、日本生命保険相互会社の名を知らないものはいまい。紀文や奈良茂のように、日本史上ポピュラーで有名な人物ではなく、地道で堅実な仕事を着実にこなした江戸期の近江商人が、わが国の企業史に大きく残る足跡を印すことになる組織を生み出したという事実は、人生の妙を語ってくれているようで興味深い。これらの近江商人たちには、紀文ら狂気と隣合わせの天才にはおそらく欠落していたであろう企業家精神、企業家倫理、人としての情感が溢れていたということに、その理由の一端があるような気がしてならない。

先の阪神大震災後の被災地での話。ある八百屋が市民の弱みにつけ込んで、大根一本を千円という法外な値段で売ったという。一方で、北九州を中心にラーメンのチェーン店を展開する会社は、九州の店舗をあらかた臨時休業にして神戸に乗り込み、テントの下で被災者に無料でラーメンを振る舞った。完全復興後の神戸で、その八百屋の商売はおそらく二度と立ち行かないであろうし、このラーメン店は、地元北九州でも大きく株を上げただろうし、仮に京阪神地区に進出したとしたら、少なくとも神戸市内では行列のできる店と化するだろうと、期待にも似た想像をする。

八百屋が、一取引ごとの利益の極大化を目論む紀文的発想の持ち主であるとすれば、ラーメン店の社長は、〝薄利多売〟（彼のこの場合〝無利多授〟であるが……）による〝社会貢献〟、あるいは〝利益の社会還元〟そして〝三方よし〟という近江商人の精神にも通じる行為を成したとみるのは、いい過ぎだろうか。

OLD IS NEW—それが、近江商人

学問としての経済学の世界では、心の豊かさ、真の豊かさを求めて既成のパラダイム（知の枠組み）を乗り超えるための様々な試みが成されている。

経営学の分野でも、一九九三年四月に日本経営倫理学会が発足するなど、〝倫理〟の問題を経営という営為のなかで、真剣に考えていこうとする動きがある。

近江商人の足跡は、こうした新しい経済学や経営学の流れのなかでも再検討し、改めて今一度評価しうる可能性に満ちている。彼らの精神と知慮は、まさに Old is new といえそうで、単に経済（営）史的側面からの分析のみで終えてしまうには、余りに惜しい宝の山に思われる。

故に、領域を超えた学際的な〝淡海文化論〟の試みを模索し、〝淡海学派〟を確立すること、そしてさらには地方からのこうした情報発信を日本文化に対する問題提起へと敷衍（ふえん）していくためにも、「Old is new —それが、近江商人」は重要なキーワードであるといえそうだ。（つづく）

ふるさと探訪ウォーク

近江商人の妻に学ぶ

県内外の女性43名が学ぶ、商人の妻の役割と知恵

梅雨の晴れ間の六月二十四日、ふるさと探訪ウォーク「近江商人の妻に学ぶ」が参加者を女性に限って開催された。全国で活躍した八幡商人の妻たちの生活を見て、聞いて、学ぼうと企画。近江八幡のまちなみに旅情を感じ、商人の妻たちの生活に大いに感銘を受け、ボランティアガイドさんのまごころに、心あたたまる一日であった。

始末第一の姿勢に学んで

■近江八幡のまちなみを歩く

紫陽花が水辺で鮮やかな花を咲かせる八幡堀から近江八幡市新町界隈は、江戸時代の商家や蔵がまちの歴史遺産として大切に保存されている。まちなみを散策すると、長年に亘って培われた文化の香りが漂い、不思議と心が落ち着く。

新町を散策

北海道や安南（ベトナム）にまで足をのばして交易し、明治以降の商社設立の礎となった近江商人を陰で支えた妻たちは、飾り気がなくて頑丈そうな屋敷の中で、一体どんな生活を送ったのだろうか。今回の催しは、このことがテーマであった。

商家がたちならぶ新町どおりにある、近江八幡市立歴史資料館や西川甚五郎邸を見学し、酒蔵を改造した酒遊館で郷土料理の昼食をとり、午後からは水郷巡りを楽しんだ。

箸袋の折り方を習う

■ケチとはちがう始末のこころ

江戸時代の商家に家財道具などを展示し、当時のままに再現している近江八幡市立資料館の河内美代子研究員は、「近江商人はケチではなく、始末を第一の家法としていました」と話す。展示されている紅花の総絞りの振り袖をよく見ると、袖の部分に布を足した縫い目がある。近江商人の妻たちは、お嫁入りに持ってきた小袖を振り袖にリフォームし、娘に贈った。近頃、アメリカンパッチワークが女性の間で大流行しているが、江戸時代に端切れを亀甲の形に縫い合わせて作った袋は、色彩が綺麗で何ともいえない温もりが伝わってくる。物を工夫して使い、無駄をはぶき、しかも生活に潤いを持たせていた彼女たちが、ほほ笑みながら針仕事をする姿が目の前に浮かんでくる錯覚をおぼえた。

色が彩やかな、はぎれの小物袋

倹約と始末をモットーにした近江商人の生活ぶりは、西川甚五郎邸では際立っている。江戸時代（約三百年前）に建てられた二階建ての邸宅は、装飾は極めて制限されたシンプルな造りだが、桧や欅など、質のよい材木を使って頑丈に建てられ、少々高くかかっても永い時代を耐えることを念頭に工夫されている。

明治時代に皇族を迎えるために増築された部屋は、手仕事で丁寧に造られた見事な書院造り

西川甚五郎家全景

で、同じ材料と技術を使って再現することは不可能なほど価値あるものだという。床柱は、長持ちさせるために普段は木製のカバーで覆われている。ここに「タメに良い」という近江商人の気風があらわれているようだ。

近江商人の精神文化に学ぶ

現在、わたしたちは大量生産、大量消費や、使い捨ての生活態度を変えることを余儀なくされた。近江商人の質素ながらも潤いのある精神文化は、現代人に人と物を慈しむ生活をおくる指針を示してくれているかのようで、物を大切に使うと心が少し豊かになるような気がした。まちの人々が愛着を持って保存してきた近江八幡のまちなみは、訪れる人に潤いと安らぎを与えてくれるのは、こういうことなのであろうか。

西の湖の水郷を和船でゆったりとめぐると、しなやかなアオサギが目の前で羽を広げ、一面に生えた葦の茂みから心地よい鳥の声が聞こえてきた。信長も遊んだといわれている水郷で、はたして近江商人の妻たちがこうしてわたしたちのように、舟遊びに興じたことがあったのだろうか。青々とした葦の間を和船は同じ調子で進んでいった。

（平井千晶　記）

西川甚五郎本店の歴史

財団法人西川文化財団は、ここ近江八幡市にある〝西川甚五郎本店〟敷地内の一角に事務所を設けて、一昨年の四月に発足。西川甚五郎家の古文書の保存管理、および学術研究に対する史料提供と、学校教育の助成事業などを柱に、滋賀県内の各種文化活動に対しても資金助成を行っている。

《西川の創業》

蒲生郡南津田村の西川家に生まれた西川仁右衛門は、一五六六年十九歳で〔蚊帳〕の商いを始めた。やがて近江八幡市大杉町に移って、商号を〝山形屋〟と定め、それより四人の子息を替わり替わりに引き連れて、近江八幡と能登半島の鹿磯の間を往復、日本海沿岸の地方と商いをした。その後、一六〇三年には美濃・尾張に販路を広げ、〔蚊帳〕の他に〔畳表〕を併せて取り扱い、一六一一年には三州・遠州の地に店（おたな）を設け、一六一五年には、お江戸日本橋に〔・・店〕（つまみだな）を構え、商売一筋にその道を極め研鑽を重ねて、現在の〔ふとんの西川〕の基礎を作ったのであった。

《西川家文書》

社史編纂の目的をもって西川家文書の整理を行い、その後再整理して目録を作って以来、現在に至るまで茶箱に入れてあった文書をパソコンを利用した〔光ディスク〕による史料の〔データベース〕を構築して、保存整理する事となった。パソコンを使った古文書の整理は、多方面より大きな関心がよせられている。（財団法人西川文化財団事務局長　田中良三記）

西川甚五郎本店にて

めざせ現代の近江商人

新近江商人塾で学び AKINDOセミナーで考える

平成三年の「AKINDOフォーラム」の成果を引き継ぎ、二十一世紀に通用する国際経済人の育成を目的として、平成四年よりAKINDOセミナーを常設。毎年時代に即したテーマでの公開講演会と短期ビジネスセミナーが開催されている。

「新近江商人論」の確立へ

AKINDOセミナー'92受講生OB会

――「葦の会」活動を通して――

葦の会会長
桑田保正
㈱昭建　営業部長

平成四年、AKINDO委員会の主催により、「近江商人」をキーワードに、現代の経済環境に適応する企業経営のあり方と、その経営人・企業人像を探る「AKINDOセミナー'92」が開催された。

県内外の企業から二十五名の受講生が参加し、四日間にわたり環境・消費者問題、情報化社会への適応などについて認識を高め、夜中遅くまで議論を行った。そして、結果をまとめた「AKINDO宣言」を採択した。

その時参加した受講生が、近江商人の国際性、創業精神、進取の気性をより深く学び、また企業の中にいながら〝脱企業人〟として社会とどうかかわるのかを共に考え、会員相互の親睦を深めるべく、平成五年五月、異業種交流会として「葦の会」が発足した。会の名は、全国各地を脚で駆け巡った近江商人、琵琶湖の景観をいろどり、湖国産業のひとつとなった葭（葦）、そして考える葦にちなんで命名。今日まで、数度の講演会、近江商人ゆかりの地を巡り、そのつど勉強会、討論会を開催してきた。今までの成果を「新近江商人論」として「新AKINDO宣言」が採択できることを心待ちにしている。

「葦の会」が採択した「AKINDO宣言」は、スクール終了時に各グループより提案された。内容は次のとおりである。

○新近江商人の「三方よし」
○「四方よし」理念の実現
○海図なき時代を自己実現のために生き抜く
○平成AKINDO、物見遊産のススメ

葦の会のメンバーは二十四名で、近江商人に関する講演会の開催や、彼らのふるさとの研修を実施する中で、相互に講師になるなど精力的な活動を展開している。

樋口廣太郎氏

童門冬二氏

AKINDOセミナー'95に参加

明日から私の経営創造が始まる

㈱ナカザワ　中澤　実仟盛

混沌とした経済情勢の中をさまよう中小企業者として、何か打開策はないかとAKINDOセミナー'95に参加した。

初日は、八幡講演会から始まった。スーパードライの驚異的売上の推進者のアサヒビール会長樋口廣太郎氏が最初に登場。彦根高商（現滋賀大学経済学部）の卒業生だと聞くと急に親近感が沸いてきた。そして企業家としての大きなパワーを感じたのであった。さらに童門冬二氏の講演の中で、近江商人が心の火種を持ち続けていたことが、あらゆる困難を乗り越える原動力となったということを知った。

ワークショップでは、新しい仲間との出会いがあり、共に学ぶ経験をした。翌日の「マルチメディア時代の企業戦略」「価格革命前夜」「環境問題と企業のあり方」の講演を聞いていくなかで、二十一世紀に向けての展望が広がってきたような気持ちとなってきた。深夜まで熱の入ったグループディスカッションが繰り広げられ、異なった業種の方々の体験が大変新鮮な響きを感じる。

本セミナーの中で一番の大きな感動は平和堂夏原会長の「商人の現代的意義」の話であった。誠意と根気があれば必ず成功する。といった内容は、これなら自分もできるという自信と勇気が彷彿してきた。そしてこの言葉は今、私が迷っていた悩みを解決する糸口となったように思えた。最後に感謝の心の大切さを力説されていたが、普段心掛けていながらもともすればなおざりとなっていた感謝する心の重大さを再認識した次第である。各講師の内容はそれぞれ切り口が異なったとはいえ、企業経営や商売に王道はないことを痛感した。

夏原平次郎氏

セミナー終了時には、総括発表をしたが、セミナーの総括という以上に自分自身の明日に向かっての経営姿勢を示唆したものであったように思われる。

そして参加してよかった。大いにこの経験を成果として花開かせたいと新たな決意を自分自身に宣言したものであった。

平成7年新近江商人塾　塾生募集

「逆風に耐えて明日の活路を拓く、商人の志と叡知」

9／8　「感動産業化で不況を越えよ」
　㈱オフィス2020代表　緒方　知行　氏
「逆境に生きるリーダーの条件」
　博報堂理事調査役　小川　明　氏
「商いとは“不”の解消業だ！」
　フードコーディネイター　おおやかずこ　氏

9／13～9／14　商業激戦地へ現地研修

9／21　「心の商い、感動の商法」
　安心堂白雪姫　橋本　太七・由起子氏
総括「まず、ここから始めよう！」
　㈱オフィス2020代表　緒方　知行　氏

募集定員　25名（定員になり次第締め切らせていただきます）
応募資格　原則として、県内において商業サービス業を営む中小企業経営者および、後継者等で、地域商業の振興に意欲のある方。
受講料　20,000円ほかに神奈川県への現地視察等実費が必要。
会　場　つがやま荘（守山市　JR守山駅東口前）
申込およびお問合せ　AKINDO委員会事務局
〒520 滋賀県大津市京町四丁目1－1
滋賀県庁商工課内
☎0775－23－4641　FAX0775－28－4877

創刊号
■編集・発行／AKINDO会議　大津市京町四丁目一―一　AKINDO委員会内

お知らせ

好評　近江商人家訓と商法カレンダー

本年も継続制作へ
社名入れの需要へも対応

現在制作中の「近江商人資料館マップ」への広告ご協賛いただいた場合はカレンダーを100冊進呈いたします。

近江商人の商法と家訓をイラスト入りで簡潔に紹介した月ごとの近江商人カレンダーは、一昨年より制作し、ご希望の方に送付してきたが、例年好評につき本年も引き続いて制作・発行することとなった。

最近の住宅事情に併せたスリムな大きさで使用後保存することも可能である。商売や企業経営のヒントが満載されているので、座右の銘としている人も多いとか。本年も従来のスタイルを踏襲した内容のものを検討している。なお現在制作が進められている「近江商人資料館マップ」の制作にご協賛企業には、百冊を無料進呈。さらに社名を印刷して各社でご使用いただくこともできることとした。社名入りカレンダーのお問い合わせ、お申し込みは左記までご連絡ください。

なお参考として一千部社名刷り込みの場合　社名刷り込み代を含めて一冊二百六十円にてお引き受けします。

お問い合わせ／お申し込み先
TEL0775-23-4641
AKINDO委員会内
AKINDO会議事務局まで

中学生向き「近江商人」ビデオ完成　各学校へ配付

近江商人についてわかりやすく解説したビデオは作成以来、各方面にて好評であったが、ひろく若年層にも郷土学習の資料として利用できることを目的として、県内中学校社会科担当の先生7名の協力を得て、このたび中学校の学習の教材としてビデオを作成した。生活様式の大きな変化や流通機構の激変するなかで若い世代に理解を深めていただくために滋賀県内の各中学校へ配付した。ビデオの成果が楽しみである。

近江商人パネル展各地を巡回

近江商人の商法や活躍した時代背景および経営の理念を説明したパネル展示が、本年も滋賀県立文化産業交流会館をはじめ、県内各地で巡回開催している。本年はとくに、家訓や商法にみる「商人の理念」をテーマとしたパネルを新調し、各地で好評を得ている。

各会場では、オリジナルテレホンカードが当たる近江商人クロスワードクイズを用意して来場をお待ちしている。なお9月以降は、パネルの貸出に応じることができ、多くの機会でパネル展示を期待している。詳しいお問い合わせは滋賀県庁内AKINDO委員会事務局まで（TEL0775－23－4641）

てんびん棒

●一面緋色の正田絞りの訪問着は、息をのむような鮮やかさであった。しかし近づくと振り袖の部分がくけてある。「成長に伴って寸法を変えて長い期間着られることを考えていた近江商人の妻たちの知恵なのです」と近江八幡市立資料館の河内さんは話してくれた。始末という独特のこの地方の言葉、整理するという意味で「しまつ」は使われることが多いが、ここではどちらかというと倹約に近いニュアンスがある。「タメによい」という言葉が本来何を意味していたのか少し理解できたふるさとウォークであった。

●滋賀県の無形文化財ともいわれる近江商人の存在を、激動する経済社会の中で大いにその理念と商法から学びとり、現代社会に生かしていこうとAKINDO委員会では種々の事業を展開している。「三方よし」が広がり、各方面の情報の橋わたしのお役ができることを願って紙面を構成していきたいものである。